

みんなで作る園の未来!

保育ナビ

2026
APRIL
〈1/12〉

4

子どもと広げる
ワクワク
ネットワーク

ICT活用術
保育の質を高める

今、園に求められる保育DXとは?

大特集

ここに注目!
「保育の質」を
捉え直すための
12のキーワード

解説動画
付き

やってみよう!
子どもの姿ベースの
指導計画

園のミドルリーダー
育成講座

2026年度は、「子どもというワクワクが広がる！園がまちの『未来』になる」
をコンセプトに、内容をお届けします。

『保育ナビ』の使い方

読む

まずは、自分で読みます。回覧したりして、園内でも各自で読みます。



語り合う

読んだ記事をもとに、園内で「雑談」をしたり「研修」をしたりしてみましょう。



保育の質の向上へ

読み、話すことで、園内で学び合い・語り合いが生まれ、保育の質が高まります。



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園長 主任 学年リーダー

マークのついているコーナーでは、園内で話し合うためのお題・ワークを用意しています。職員会議や園内研修などでご活用ください。

マークのついているコーナーではワークシート等のダウンロードができます。

マークのついているコーナーでは、関連動画があります。

右の二次元コードからアクセスするか「保育ナビ」で検索してください。

保育ナビ



『保育ナビ』は、
編集委員が
サポートしています。

秋田喜代美（学習院大学）
浅井幸子（東京大学）
大方美香（大阪総合保育大学）
大豆生田啓友（玉川大学）
北野幸子（神戸大学大学院）
古賀松香（京都教育大学）
境愛一郎（共立女子大学）
汐見稔幸（東京大学名誉教授）
砂上史子（千葉大学）
松井剛太（香川大学）
無藤隆（白梅学園大学名誉教授）
矢藤誠慈郎（和洋女子大学）
敬称略 50音順

★編集委員から読者の皆さんへの
メッセージを月替わりで配信します。
詳しくはP.32へ！

『保育ナビ』が
伝えたいこと

「やりたい保育」の実現へ
恐れずに飛び込もう！

「少子化」「人材難」で、手作業や事務処理に追われ、「やりたい保育」ができていないことに心を痛めていませんか。しかし、この課題は「変革」のチャンスでもあります。4月号は「保育DX・ICT」特集。ICTは保育者が子どもと向き合う「時間」を創出する手段であり、苦手な先生にも「できるかも？」と思える事例を厳選しました。意識を変え、一歩踏み出せば、「やりたい保育」の入り口はすぐそこです！——『保育ナビ』編集部

巻頭

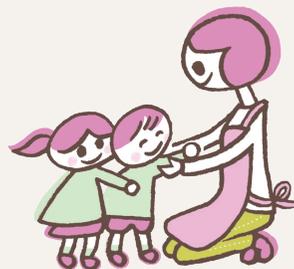
フレーベルのことば 汐見稔幸 小西貴士

大特集

園 今、園に求められる保育 DX とは？

保育の質を高める ICT活用術 …4

大豆生田啓友



園紹介

園のかたち2026 …24

オハナゆめ保育園柏の葉（千葉県柏市）

注目テーマ

主 ここに注目！
「保育の質」を捉え直すための
12のキーワード …28

秋田喜代美

学び合いが広がる！
園と小学校の交流実践 …30

無藤 隆

リ 編集委員に聞く
保育、ここがおもしろい！ …32

秋田喜代美

保育内容

園 保育環境 今こそ、汚れを気にせず
思い切り遊ぼう！
～「しゅらみい」でワクワクする保育へ …34

磯部錦司

リ 3・4・5歳児
遊びが育つ保育
一思考力に焦点を当てて …36

河邊貴子

リ 0・1・2歳児
保育者のセンス・オブ・ワンダー
～子どものみかた～ …38

井桁容子

やってみよう！
子どもの姿ベースの指導計画 …40

大豆生田啓友 佐伯絵美

主 子ども、保護者、園
みんなで楽しむ 園行事 …44

秋田喜代美

主 ルーティン業務から脱却！
保育の“あたりまえ”見直し術 …48

浅井拓久也

Information …49

人材育成

未来を拓く園づくり・職場づくり
～人が育ち、幸せに働ける
園を再構築 …50

菊地加奈子

園 園のミドルリーダー育成講座 …54

杉村基樹

国の動き

国の動きを読む！
研究者の目2026 …56

矢藤誠慈郎

園経営

経営コンサルタントが提案する
変化する時代の経営戦略 …58

桑戸真二 柳 修二

チャレンジの前の法律講座 …60

木元有香

エッセイ

保育ナビエッセイ
わたしの子ども時代 …62

宮里眺美

今、園に求められる保育DXとは？

保育の質を高める

ICT活用術

子どもと向き合う時間を増やし、「質の高い保育」と「働きやすさ」へ。国の政策として加速する「保育DX」は、単なる業務のデジタル化ではありません。帳票、連絡帳、集金などの煩雑さを解消し、「命を守る安全体制」と「保育の質向上」へつなげます。本特集では、こども家庭庁インタビューから最新事例まで、ICT活用で未来の保育をどうつくるか、その必要性和可能性をわかりやすくお伝えします。

監修 大豆生田啓友 (玉川大学教授)

イラスト/さかじりかずみ

0歳児に午睡センサーを使い安心材料に。でも依存はしない！（私立保育園園長）

午睡センサー

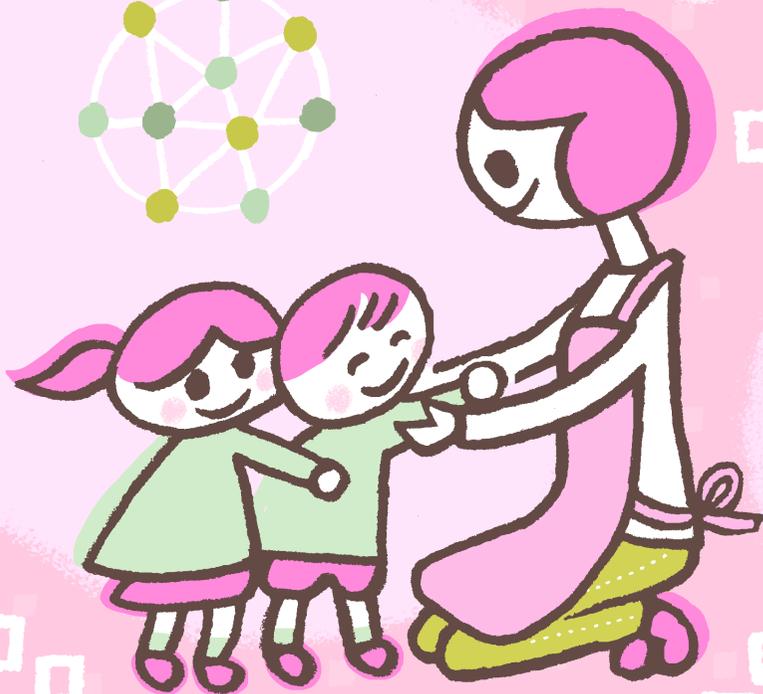
見守りのプロをサポート！
睡眠中の子どもの呼吸や体動を検知し、自動記録。うつ伏せ寝へのアラートで安全性を高めつつ、午睡チェックにおける精神的負担を減らします。



サービス

CONTENTS

- Part ① こども家庭庁インタビュー：
国の政策から読み解く
保育ICTの必要性 … P.6
～保育の質向上と働き方改革に向けて
- Part ② 実践報告：
保育現場における
ICTの活用事例 … P.10
- Part ③ 座談会：
保育DXの未来 … P.18
～ICT活用で語り合いを深め
保育の質向上へ



連絡帳が効率化し子どもと遊ぶ時間が増加したが、スマホ使用がさぼっているように見える点が心配。(私立保育園園長)

ICT活用で朝の保護者の電話が激減！欠席、バス利用、お迎えの人が一覧でわかり、コロナ禍の体温入力にも対応でき、情報共有が格段と便利に。(私立幼稚園園長)

行政に提出する預かり保育の「時間」「料金」の集計がバツと出てくるのが便利！(私立幼稚園園長)

保育者のシフト作りでICTをうまく活用できると良い。(私立幼稚園副園長)



統合型ICTシステム
(保護者連絡・登降園管理・請求・帳票など)

すべての園務を1つに！
登降園管理・連絡帳・請求など複数の業務を一元管理し、データ共有で職員の負担を大幅軽減。園運営を丸ごと効率化します。

帳票類は数年前からICT化を始め、ほぼすべてがペーパーレスに。パソコンのアップグレードが課題！(私立保育園園長)

集金・キャッシュレス

集金業務から解放！
保育料や実費徴収をオンライン決済に。保護者はカードや口座振替で簡単支払い、園は現金管理の手間とリスクがなくなります。



写真販売

写真の展示・集金は不要！
園で撮った写真をオンラインで販売し、保護者は好きな場所で選べます。園は写真の展示や集金の手間がなくなり、業務を大幅に削減します。



主要な保育ICT

園外保育が多いので1人1台のトランシーバーが重宝。(私立幼稚園園長)



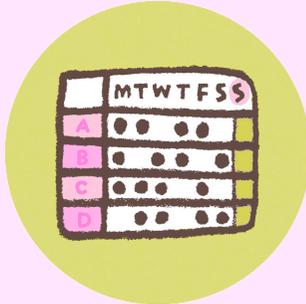
バス位置情報／安全装置

安心・安全な送迎へ！
GPSでバスの現在地を保護者にリアルタイム通知。置き去り防止装置で子どもの安全を確保し、国の義務化にもしっかり対応できます。

手書きの園から転職してきて帳票関係はかなり楽に。でも、セキュリティ面が少し心配。(私立保育園担任)

勤怠・シフト管理

複雑なシフトも自動化！
保育者の出退勤を正確に記録し、労働時間を自動集計。早番・遅番も簡単な操作でシフト表を作成・共有し、事務作業の効率化と労働実態の把握を実現します。



APRIL LETTER



ドキュメンテーション

「なぜ？」を見える化！
子どもの学びの様子を写真や動画でデジタル記録。手書きより圧倒的に早く作成・共有でき、保育の質を高める対話と振り返りを促進します。

個々のペースで入力でき、リアルタイムで記録や情報等を共有できるので、クラスを超えて見合うこともでき、つながりが深まった。(私立こども園副園長)

導入から十数年、業務改善・情報共有は格段に進展。今後はドキュメンテーションと日誌など重複内容を一本化したい。ICT活用で地域とどう連携するかが課題。(私立保育園園長)

ドキュメンテーションを配信に切り替えてから、写真点数や配信回数が増え、園の保育が保護者へ伝えやすくなった。(公立保育園園長)

Part ① こども家庭庁インタビュー

国の政策から読み解く 保育ICTの必要性

～保育の質向上と働き方改革に向けて

少子化、人材確保難の時代の突破口となり得る、保育者の負担軽減と質の高い保育の実現に向けたDX推進の展望と支援策とは？

こども家庭庁の栗原課長と馬場専門官にお話をうかがいました。(2025年10月実施)

お話をうかがった人

栗原正明さん
こども家庭庁成育局
保育政策課課長



馬場耕一郎さん
こども家庭庁成育局成育基盤
企画課教育・保育専門官

インタビュアー

大豆生田啓友先生
玉川大学



なぜ今、
保育DXが必要なのか？

大豆生田先生(以下、大豆生田)…社会が大きく変化するなかで、なぜ保育DXが必要なのでしょう？

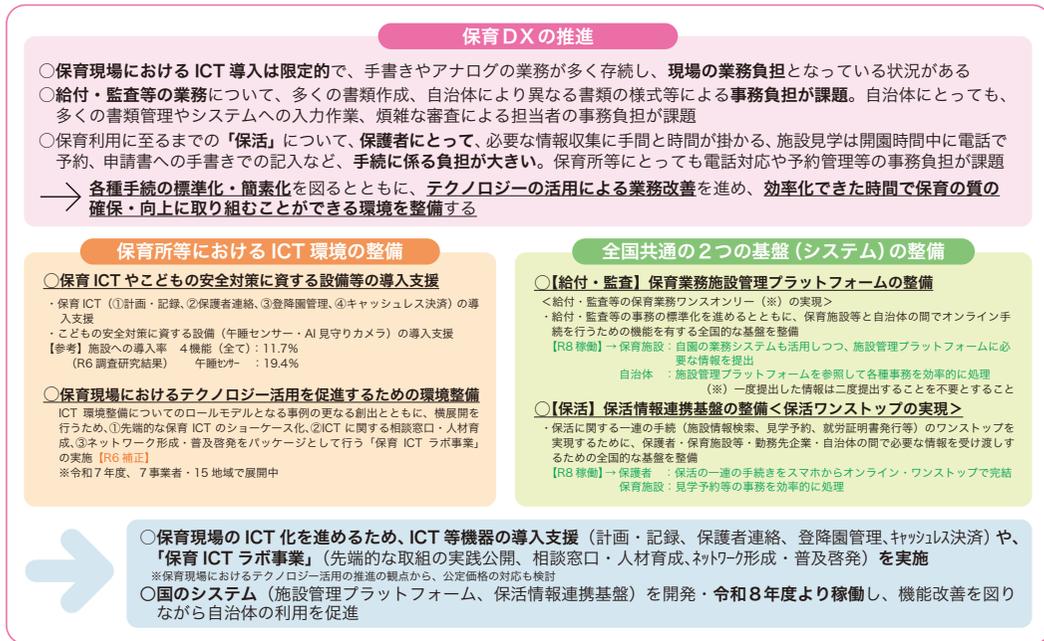
栗原課長(以下、栗原)…保育者の皆さんも感じておられるでしょうが、保育現場は、子どもの育ちをきめ細やかに見つめるため、昔と比べて「やらなければならぬこと」が非常に多くなっています。しかし、保育人材の確保も難しく、人手が潤沢ではありません。このような状況のなかで、どんどん進化してきているテクノロジーを使わない手はない、というのが私たちの基本的な考え方です。特に重要視しているのは、ICT活用による「時間をつくる」という効果です。手作業や電話でのやり取りなど、事務作業をテクノロジーに置き換えることで、時間を大幅に短縮し負担を軽減することができます。中には、ほとんど時間を使わなくても済むような状態をつくり出せる業

務もあります。

大豆生田…その「時間」を何に使うかが重要ですね。

栗原…はい、そうです。創出された時間を、本来、園が最も力を注ぐべき教育・保育、つまり「子どもと直接に接し、育ちをしつかり支える業務」に充てられるのではないかと考えています。また、保育者自身の自己研鑽や休息といった時間にも充てられるので、働きやすい環境づくりにもつながります。テクノロジーの活用は、人材に限られた状況のなかで、より質の高い教育・保育を提供していくうえでも大切です。「質」を定義するならば、1つは安全性の部分です。業務負担の軽減により保育者に余裕ができることで事故を防げる面もありますし、午睡センサーやカメラなどを活用しながら、人の目では対応が難しい部分も補っていくことが可能でしょう。今後はテクノロジーを土台にしていけることが、保育制度の持続可能性の点からも重要だと考えています。

図1 「保育 DX の推進」 (こども家庭庁、2025)



大豆生田…今、社会全体のDXが進む一方で、保育現場では手書き文化や昔ながらのやり方が残り、ICT化が遅れがちです。現場には「苦手意識」も根強く、苦手な人と一部の得意な人とで二極化していると感じます。

現場を変える支援策
保育DXの「次の一手」と
現場を変える支援策

栗原…こども家庭庁では、保育現場のICT導入を補助金により支援するほか、活用促進のための気運醸成や人材育成、さらには国による全国共通の業務基盤のシステム整備など、保育現場のテクノロジー活用に向け

馬場専門官(以下、馬場)…その「苦手意識」や「食わず嫌い」が先行してしまっている部分が多いですね。新しいものが苦手、機器での入力が苦手という意識があるようです。園長先生方の世代交代が進むなかで、苦手意識をもたない若手リーダーも増えてきていると思いますが、旗振り役が園内にいるかどうかICT導入の大きな力ギになっています。

栗原…そういった不安を解消するため、2025年度から「保育ICTラボ事業」を始めました。これは、不安もあると聞いています。

大豆生田…99%の園に端末があっても、WiFi環境が整っていないかたり、「1人1台」ではなかったりといった課題が現場にはあり、本当にテクノロジーの活用は必要かとか難しくてよくわからない、といった不安もあると聞いています。

た様々な施策を展開しています(図1)。ICT活用の状況について、現在パソコン・タブレット端末などが何かしら園にあるという施設は99%です(図2)。しかし、4つの主要機能(計画・記録、保護者連絡、登降園管理、キャッシュレス決済)をすべて導入しているのは11.7%に留まっています(図3)。また午睡センサーの導入は2割程度となっています。この状況に対し、私たちはこの主要4機能すべてを導入する割合を、2026(令和8)年度までに20%以上、2029(令和11)年度までに50%以上にするという目標を立てています。

プロフィール●栗原正明(くりはら まさあき) / こども家庭庁保育政策課課長。2000年厚生労働省入省。在スウェーデン日本国大使館や三重県庁勤務を経て、2022年6月、障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室長、2023年4月、こども家庭庁支援局障害児支援課課長。2024年7月より現職。

Part ② 実践報告

保育現場における ICT の活用事例

保育のICT化が保育現場で進みつつありますが、どのような経緯でICTを導入し、どんな効果があり、保育のICT化についてどのように考えているのでしょうか。様々な事例を取材しました。

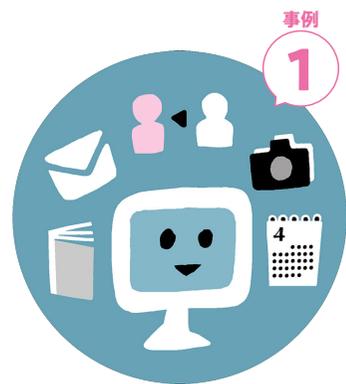


ICTの活用風景

統合型ICTシステムを導入したパソコン、タブレット、スマホにより、情報の入力・確認・共有などがスムーズになり、空き時間の活用も進展。より保育を楽しめる余裕が生まれた。

保育のICT化では9年前に連絡ツールを導入しましたが、PDFが添付できない、保護者がメッセージを確認したかわからないなど課題がありました。また、シフト作成が手書きで大変だった状況があり、保育業者からの提案を受けて、5年前に統合型ICTシステム（ルクミー）を導入。主に以下の機能を使っています。

- ① シフト管理…手書きで時間がかかっていたシフト作成が自動化され、事務時間が大幅に短縮。
- ② 連絡帳（連絡ツール）…写真を含むメッセージが伝わりやすくなり、保護者とのコミュニケーションが



事例 1 戸田第2すこやか保育園 統合型ICTシステム

お話をうかがった人



園長
小山夕子先生

職員同士の対話が増え
風通しが良好に



保育の見える化

クラスの掲示板には、統合型ICTシステムで作成・印刷したクラスの年間の保育計画やドキュメンテーションなどが掲示され、システムを有効利用。保育を伝える、伝わる場所となっている。



二次元コードを使って登降園管理

登降園システムの端末が置かれている玄関先には季節の小物が飾られ、工夫が凝らされている。二次元コードをかざすだけで、簡単に登録できる。

保育ICT基本情報

社会福祉法人安心会 戸田第2すこやか保育園

所在地：埼玉県戸田市中町2-9-11
園児数：120人
職員数：38人

インターネット環境：有線・無線
パソコン：9台
スマートフォン：13台
タブレット：6台
導入機能：統合型ICTシステム、登降園管理、写真販売、午睡センサー、検温、オンライン研修、ドキュメンテーション、おむつのサブスク
導入年度：2021年



豊かな語り合いや学び合い

ICTの導入で以前より職員に余裕が生まれ、話し合いもより活発に。話し合う時間が増えたことで互いの保育や子ども理解が深まり、保育の質向上につながっている。

促進され、文章作成の手間も軽減。
③ 指導計画・園の書式で出力が可能で、ドキュメンテーションの内容を週案の評価・反省に反映できるなど、業務の省力化が進んだ。
④ ドキュメンテーション・デジタル撮影↓Word書類に貼り付け↓印刷・掲示という手間が軽減。連絡帳や個別日誌の記録を集約し、AIが子どもの育ちをレポートとしてまとめてくれる機能も活用。
⑤ 登降園管理・子どものお休み情報などをリアルタイムで確認できるように（職員の手書きによるダブルチェックは継続）。

統合型ICTシステム導入による事務作業の短縮で、職員の休憩時間が確保しやすくなったほか、夕方の職員会議を昼の時間帯に移行できたことで、職員同士の対話が増え、風通しが良くなったと感じています。子どものウェルビーイングに向け、人と人とのかわりを増やすために、保育にICTの力を借りたいと思っています。

ここに注目!

保育の質

を捉え直すための

12のキーワード

「保育の質」向上のために自園の保育を振り返る時、ふと迷ってしまうことはありませんか？ 3要領・指針の改訂も近づくこの時期、おさえておくといよい2のキーワードを示しながら、その内容をわかりやすく解説します。



執筆

秋田喜代美

(学習院大学・東京大学名誉教授)

プロフィール●秋田喜代美(あきた きよみ) / こども家庭庁 こども家庭審議会 会長。『研修アドバイザーと共に創る 新しい園内研修のかたち』(フレーベル館) など著書多数。

キーワード

1

ワクワクの保育環境を共に創る (園庭環境と自然)

写真：静岡市立高松こども園 (P.28)、静岡市立西奈こども園 (P.29・上)、静岡市立清水こども園 (P.29・下)



保育の質向上は ワクワクから始まる

保育の質を捉えていくのにこんなことを考えてみたらという提案を、私共園での実践から学ばせていただいたことをもとに1年間連載します。

保育の質は、客観的には構造の質や保育プロセスの質、運営マネジメントの質等から概念的には捉えることができますが、私は保育の質より園にかかわる人が感じる保育実践への質感が大事だとお伝えしています。

子どもが遊びつて楽しいとワクワクし、保育者もこんな工夫をしたらもっと保育が楽しくなるのではと実感し、保護者も園の雰囲気がいいなあとはっとしたり、こんなふうに子どもが育つてうれしいと感じる園の雰囲気が保育

の質感ではないかと思えます。こうやってみたらより良い方向に何かが動きそうと感じていく循環が保育の質向上のサイクルだと思えます。日本の保育理念の力ギになるのは「環境を通して行う保育・教育」。そこでまず今回は、「ワクワクの保育環境を共に創る」と題して、具体的に園庭環境や戸外の自然環境に目を向けてみたいと思います。

園庭環境と可動遊具

なぜ保育の質の話で園庭かと言えば、第一に保育室の場合はそのそれぞれの担当保育者で解決することが多いのに対し、園庭は園長も職員もみんなの知恵をもち寄って話し合いながら変えていくプロセスが生まれるからです。また、第二には、今の子どもたちは家庭で過ごす時間の多くは室内になります。そしてさらには、幼児がデジタル機器にふれることも増えてきているという報告があります。だからこそ戶外環境は、運動能力の形成や自然と出合ううえでも大事なのです。そして第三には、保護者や地域の人の協力やつながりも生まれやすいと考えられるからです。園





庭改造というとお金がかかる大規模改造をイメージする方も中にはおられるかもしれませんが。でも、身近にできることから、お金よりも知恵を使って環境構成を考えていくことができるからこそ手応えを感じ、おもしろくなるのです。また園庭がない園もあるでしょう。でも、散歩や近くの自然にふられる場での出合いのあり方を考えることで保育の質をアップすることができるのではないのでしょうか。

まず保育者の皆さんは、園での子どもの動きとしてどんな動き、どんな姿を思い浮かべることができるでしょうか。また、園あるいは地域で子どもたちが出合える草花や虫、鳥の名前がい

くつくりい挙げられるでしょうか。それは皆さんが戸外環境にどれくらい関心をもっているかを表すことにもなります。園庭や戸外での動き方、そこに自然に保育者が当たり前に感じていて気付いていないことがあるかもしれません。それを見える化してみたりするとよいかもかもしれません。園庭マップや散歩マップなども、その手掛かりの1つになるかと思えます。

私は、園庭の可動遊具の種類や内容を工夫してみるとよいとお勧めします。なぜ可動遊具かと言えば、幼児になると子どもたちが保育者と共に自分で遊びの環境や場を創ることができるようになるからです。保育者が環境を構成するだけではなく、子どもと共に環境を構成・再構成する時にいろいろに使えるものとなります。また、可動遊具にはビールケースやコンテナ、パレット、タイヤ、お風呂マット、お風呂の椅子やすのこ、樋等々いろいろあります。

これらは、本来保育のために作られたものではないので、使用に対しての安全管理はとても大事ですが、一方で、

これはこう使うものと決まっていないからこそ、子どもの創意工夫でいろいろな形で使用でき、保育者側もこんな発想もあつたかと改めて子どもの着想のおもしろさを実感できることにもなります。一緒に創っていくのが楽しいのです。写真から、同じコンテナでも子どもがいろいろな発想で使えていることがわかるのではないのでしょうか。また、段差や斜面が環境としては大事になります。

保育の質向上は、職員みんなのワクワクからのひと工夫、そして気づき創り出すのではないのでしょうか。

掲載テーマ予定 *変更になる場合があります。

- 4月 ワクワクの保育環境を共に創る(園庭環境と自然)
- 5月 小さな自然から大きなワクワク
- 6月 もうひと工夫の室内環境(室内環境と素材)
- 7月 楽しく記録: 保育記録の工夫(ドキュメンテーションやポートフォリオ)
- 8月 保育のインベーションへ: ICTを保育や園務に活用
- 9月 保護者と共にワクワク: 家庭との情報共有の工夫
- 10月 研修はもっと楽しくなる: 園内研修の工夫 その1(語り合いを深める)
- 11月 研修をつなごう: 園内研修の工夫 その2(積み重ねができる研修)
- 12月 園のビジョンをみんなで考えよう: 園長や保育者のリーダーシップ
- 1月 みんなの良さを活かそう: ミドルリーダーの育成
- 2月 こどもまんなか社会を各地域で創る: 地域や外部人材との連携
- 3月 地域の育ちと学びのコミュニティ・応援団の形成: 小学校との連携・接続で質向上



学び合いが
広がる！

園と小学校の 交流実践



この連載は、小学校から高等学校までの教科書事業を手がける東京書籍とフレーベル館のコラボレーションによるものです。

「幼保小の架け橋プログラム」の推進により、園と小学校の連携が深まり、交流の機会が増えています。先進的な取り組みを実施しているエリアの具体的な実践事例を小学校の視点からご紹介し、交流から見えてくる新たな気づきや成果を考えます。

監修 無藤 隆 (白梅学園大学名誉教授) 協力/東京書籍

地域ぐるみで取り組む 幼保こ小の連携と接続のポイント

本校には併設園があり、長年、近隣の保育園、こども園の園児との3園交流を行ってきました。ここ数年でさらに3園が加わり、6園の園児が小学校で一緒に遊んだり、名前入りの写真を送り合ったりして交流を行っており、園児並びに管理職、担任が良好な関係を築いています。

そのつながりを活かし、学期に1回実施する「幼保こ小合同会議」では、教員と保育者が各校園の方針や子どもたちの姿について語り合い、地区で目指す児童像を共有し、幼児教育施設と小学校が子ども中心の交流活動を実施しながら、幼保こ小の真の連携を進めています。2025年度末には、地区教育委員会の「架け橋プログラムモデル校」として、これまでの幼保

こ小の連携づくりの過程を地区内で報告する予定です。

この取り組みを通して学んだことは、幼保こ小それぞれの立場を超え、協働して子どもたちの資質・能力の育成を目指していくということ、そのためには、子どもはもちろんだ、教員と保育者も良好な人間関係を築いていくことの重要性です。

「小学校は、まちの公園」

6園交流で仲良くなった子どもたちは、地域の公園で会った時お互いに名前を呼び合って遊んでいます。

併設園がある本校は、併設園児を1年生の生活科の授業「おもちゃ遊び」や、学校行事に招待して自然と交流してきましたが、現在は、この関係を他園にも広げてい

ご紹介いただくのは



新宿区立
落合第三小学校・幼稚園
校長
清水 仁先生

新宿区立落合第三小学校
1929年開校、児童数302人。
敷地内に幼稚園を併設し、幼
保こ小連携教育を推進。近隣約
20園の卒園児が入学し、1年
生は39人。

幼児期の経験がつながる

教員のいちばんの気づきは、幼児期の豊かな遊びの経験が小学校の学びにつながっていることでした。園では、子どもの「～したい」という思いを大切に、遊びを促す環境をつくり、一人ひとりを丁寧に見取り、適切に支援しています。そこでは、自然に遊びが生まれ、遊びを通して子どもがかかわり合い、生活を豊かにしていく姿が見られました。これこそが、小学校での主体的・対話的で深い学びや、探究につながっており、スタートカリキュラムはもちろん、小学校でのすべての学びに取り入れていきたいことです。



幼保こ小連携のための会議の様子

教員と保育者が立場を超え 目指すところを共にしていく



無藤 隆

(白梅学園大学名誉教授)

「小学校は、まちの公園」という命名がすてきです。小学校が地域の子どもを含めた人たちにとって大切であることがよくわかります。そこはもちろん幼児教育の施設にいる子どもたちが小学校を参観したり遊びに行ったりが中心です。同時に小学生もまた、学校から出て、園に行き、幼児とかわることもあり、地域の人々との交流もあります。

仲良くなった子どもたちは名前呼び合うようになります。幼児には小学校での学びが待ち遠しく、入学後は他園から入学した子どもを助けていきます。教員と保育者も顔見知りになり、子どもの姿について話し合い、それぞれの立場を超えて目指すところを共にして、子どもの教育を進めていくのです。

ます。小学校の施設が空いていけば、散歩がてら遊びに来てもらい、都庁や富士山が見える屋上の芝生でお弁当を食べたり、幼稚園の園庭と一緒に思い切り水遊びしたりすることも勧めています。小学校の授業や音楽会などの行事を見に来ることも自由です。

これらの交流が園と小学校の垣根を取り払い、子どもたちが安心して小学校生活を送る滑らかな接

続の良いきっかけになっています。実際に小学校入学後も、学校は子どもたちにとって「勝手知ったる」慣れ親しんだ場となっており、小学校生活にもすぐに馴染んで、他園から来た子どもにも優しく学校施設を紹介する姿が見られます。

これを私は、「小学校は、まちの公園」と呼んでいます。お金も手間もかからず、幼児教育施設にも小学校にも有益なことです。

プロフィール●無藤 隆(むとう たかし) / 白梅学園大学名誉教授。白梅学園大学大学院で指導を行うかたわら、保育者、保育研究者向けの講習会、勉強会にて講演を行う。今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会座長。幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会委員長等を歴任。

保育の当たり前を捉え直す

子どもといる
ワクワクが
広がる!

保育内容 INDEX

保育実践の知識や考え方、発想、スキルなど、「保育の当たり前」を捉え直すうえで役立つ記事を掲載しています。気になる記事を園内で共有し、語り合い、試してみ、子どもといるワクワクを広げていきましょう。

P.34

保育環境

今こそ、汚れを気にせず思い切り遊ぼう！
～「しゅらみい」でワクワクする保育へ

砂遊び

P.36

3・4・5歳児 遊びが育つ保育
ー思考力に焦点を当ててー

遊びの中で育まれる思考力

P.38

0・1・2歳児

保育者のセンス・オブ・ワンダー
～子どものみかた～

もう、まてない!

P.40

やってみよう!

子どもの姿ベースの指導計画

子どもが「安心」を得る

手がかりは日常にある

P.44

子ども、保護者、園

みんなで楽しむ 園行事

生活展

P.48

ルーティン業務から脱却!

保育の“あたりまえ”見直し術

ドキュメンテーションは毎日作る!?

PICK UP!



砂遊び、どろんこ遊び、造形活動など、子どもが汚れながら遊び込むことの重要性和楽しさとは? 今号は「砂遊び」の意義と保育現場の声を紹介します。

PICK UP!



職員の業務や保育行事を見直したいと思った時どうすればよいでしょう。慣習化された業務のリフレーミングのための思考法をご紹介します。

やってみよう!

子どもの姿ベースの 指導計画

今月の動画はこちら!
4月号のバースコード

監修・執筆 大豆生田啓友(玉川大学) 執筆 佐伯絵美(合同会社子どもベース)

あなたの園では、本当に子どもの姿を捉えられていますか。子ども一人ひとりに目を向け、そこにある意味を問うことが、「子どもの姿ベース」の保育となり計画となります。子どもの姿ベースの計画づくりに欠かせない、見取りのポイントを解説します。



パソコンから視聴する時は、
下記で検索を。

保育ナビ ワークシート 🔍

第1回

子どもが「安心」を得る手掛かりは 日常にある

0歳児の
エピソード



0歳児担任
大野先生
(保育歴2年)

まだ環境に
慣れていないから
仕方ないね。
今は、泣かずに過ごす
ことが優先!

4月、新入园児のAちゃんは、新しい環境に慣れず毎日泣いて登園します。当然なかなか遊び出せず、目に涙を浮かべながら、赤と青の積み木を手にしてウロウロするばかり……。

0歳児担任
山田先生
(保育歴7年)

見取りのポイント

0歳児も自分なりに考える人 その子の気持ちに寄り添ってみよう



佐伯絵美
(合同会社子どもベース代表)

新年度がスタートすると、どの園でも不安そうな表情があちこちで見られます。特に0歳児クラスは、それまで一緒に過ごしていた保護者と初めて離れる子どもも多く、その不安は私たちの想像をはるかに超えるものかもしれません。

そして、保育者もまた、どこかソワソワしがちなもこの季節。クラス内が泣き声で溢れることもあり、戸惑ったり、疲弊したりする保育者も少なくありません。そうした状況が重なることで、つい、子ども一人ひとりの想いにまで気が回らないことがあります。特に、0歳という小さな子どもが相手だと、「小さいから仕方のないこと」と決めつけてしまったり、「とにかく泣き止ませなくては」という考えになりがちかもしれません。

ですが、今回のエピソードの保育者は、「いつも赤と青の積み木を手にする」という行動に「何かAちゃんなりの想いがあるのではないか」と考え、Aちゃんの姿をほかの保育者と共有すると同時に、お母さんにも聞いてみることにしました。すると意外なことがわかりました。実はAちゃんが毎日握りしめている積み木はAちゃんの家にもあり、よくお母さんと一緒に遊んでいるということがわかったのです。もしかしたら、Aちゃんは家と同じ積み木から安心を感じ、自分なりに不安な状況を乗り越えようとしていたのかもしれません。0歳の子どものにも想いや考えがあります。

「0歳児だから」と決めつけず、常に「なぜだろう」と問いをもち、継続的に見ていこうとしたり、同僚や保護者とその姿を共有したりすることが重要なのです。その積み重ねが、Aちゃんが安心感を得るだけでなく、その後の信頼関係にもつながっていくのです。

Aちゃんはいつも
赤色と青色の積み木を手にはしている！
家にあるのと同じものを見つけて、
安心しようとしていたのね。



見取りのポイントをもとに 記録・計画を作ってみましょう

プロフィール●佐伯絵美（さえき えみ）／合同会社子どもベース代表。約20年間、保育現場で実践を重ねた後、同社を立ち上げる。様々な保育現場とつながりながら、各園での子どもの声・想いを大切に保育の実践を共に目指す。

『保育ナビ』編集部からの お知らせ

公式サイトやSNSで 保育最新情報をチェック!

『保育ナビ』は公式サイトやSNSでも様々な情報を配信しています。より早く、より詳しい情報のためにぜひともチェックしてみてください。

公式サイト



YouTube



Facebook



Instagram



「保育ナビ倶楽部」の 会員になりませんか?

メールマガジンで保育に役立つコラムや『保育ナビ』情報など、毎回、様々な情報をお届け! どなたでもご利用いただけます。(要登録、無料)

- ◆ 園経営から保育エッセイまで、保育に役立つ情報
- ◆ おすすめの保育セミナー情報
- ◆ 『保育ナビ』の最新記事情報
- ◆ フレーベル館の商品情報

「保育ナビ倶楽部」の
登録はこちら



『保育ナビ』2026年度 読者モニター募集中

『保育ナビ』編集部では、毎号の『保育ナビ』誌面に対する意見・感想を寄せただけの読者モニターを募集しています。『保育ナビ』をご愛読の方、編集部と共にこれからの保育を考えていきたい方、ぜひともご応募ください。

応募締め切りは4月10日(金)です。

詳細はこちら



園の ミドルリーダー 育成講座



執筆 杉村基樹
(株式会社ネクサス)

園運営を円滑にし、保育の質を日々高めていくには「ミドルリーダー」の役割が重要です。「ミドルリーダー」に求められる役割を明らかにしながら、育て方のポイントを紹介します。

第1回 なぜ、ミドルリーダーの育成が必要なのか

対応は多様化し、職員の仕事観も変化しました。園長1人の判断で安定的に組織をマネジメントすることが困難になったのです。

また、園長がマネジメントのすべてを担ってきた結果、職員が指示待ちになり、園長がいなと思うように現場が動かない——そんな状態に陥っている園も少なくありません。

なぜ、園長1人では限界があるのか

マネジメント理論に**統制範囲の限界**という考え方があります。どんなに優秀なリーダーでも適切に管理できる部下の人数は6〜7人程度が限界だというものです。

例えば、30人の職員を抱える園を想像してください。園長が自分の仕事をこなしながら、職員一人ひとりに十分な時間と工

ネルギーを割くことは物理的に不可能でしょう。

近年、このような保育現場が増えていきます。これは個人の能力の問題ではなく、構造的な問題なのです。

園経営を安定させる「中核人材」とは

では、どうすればこの構造的課題を解決できるのでしょうか。その答えは、「園長の右腕として現場をリードできるミドルリーダーの育成」です。組織の大小にかかわらず、園長が園の未来を考える仕事に時間とエネルギーを割くためには、ミドルリーダーの存在が不可欠です。

ここで言う「ミドルリーダー」とは、単なる、主任、副主任という役職ではありません。次の3つの役割を担う**中核人材**を指します。

「園長先生、園にいてもらわないと困ります」——もしこのような声が現場からあがっているとしたら、それは組織の危険信号かもしれません。

保育現場で起きている「リーダー不在」という構造的課題

「園長がいないと園が回らない」「中堅が育たず、いつも同じ人に仕事の負担が集中している」「ベテランの主体性に物足りなさを感ずる」「いざという時に頼れ

るリーダーがいらない」。

園に伺うと、このような声を園長からよく聞きます。これは個人の努力不足ではありません。組織の構造そのものに原因があるからこそこの課題なのです。

以前は、多くの園で園長が保育・職員管理・保護者対応、時には事務業務までを一手に担っていました。それでも組織が回っていた時代もありました。しかし、社会が変化するにつれ、保育施設の運営は複雑化しました。書類の種類は増え、保護者

- ・方針を現場に落とし込む力
(園や園長の方針を翻訳して日常の行動に落とし込む)
- ・チームをまとめる力(クラス間の連携を円滑にし、人間関係と仕事の両立を図る)
- ・保育の質を高める力(日々の保育における小さな気づきを言語化し、園全体の保育の質の向上につなげる)

これら3つの力が機能することで、園は自走する組織へと成長します。園長がいなくても、現場が自律的に動き、判断し、改善を続けられる組織です。

ミドルリーダーを育てないリスク

「今はなんとか回っているから大丈夫」——そう考えていませんか。ミドルリーダーを育てていない組織は、環境が変化し、組織に変革が求められた時などに、突然行き詰まります。園長がすべてに目を光らせるマネジメントスタイルは、短期的には安定して見えても、表のようなリスクを抱えています。

一方、中長期的な視点をもつてミドルリーダーを育てていた園では、園長が園の未来や全体を考える事に集中でき、組織が安定します。何か起きた時にも、複数のリーダーが協力して対応できるのです。ミドルリーダーの育成は『組織運営における最も重要なリスクマネジメント』です。

育成の起点は「園長の意識転換」から

ミドルリーダーの育成はどこから始めればよいのでしょうか。その第一歩は、「園長自身の意識転換」です。「任せるのが不安」「教える時間がない」「自分がやったほうが早いし確実だ」。こ

のようなジレンマを抱えている園長は少なくありません。その気持ちはよくわかります。しかし、人は実際に経験することでしか成長しません。そのために必要なことは「任せる」という決断です。

“任せる”は“手放す”

誤解しないでいただきたいのは、「任せる」とは「手放すこと」でも「丸投げ」でもない、ということ。 「任せる」とは「信じて支えること」です。具体的には、園としての思いや仕事観についてミドルリーダーたちと丁寧に意思疎通を図りながら、園長が次のように姿勢を転換していきます。

- 自分でやる ↓ 考えさせる
- 自分で決める ↓
- 委ねる、巻き込む
- 指示する ↓ 支援する

このようなかかわり方に変えることで、ミドルリーダーたちは責任を自覚し、自ら考え、行動し始めます。一朝一夕で結果が出るものではありませんが、このプロセスをくり返すことが、**自走する組織**への確かな第一歩なのです。

表

	ミドルリーダーを育てている	ミドルリーダーを育てていない
意思決定	必要に応じて権限委譲	園長がいないと機能停止
人材育成	自律型人材が育つ	依存型人材が育つ
環境変化	対応しやすい	対応できない

予定
4月号 なぜ、ミドルリーダーの育成が必要なのか
8月号 ミドルリーダーに必要なマインドセット
12月号 感情と人間関係のマネジメント
5月号 ミドルリーダーの役割とは
9月号 職場におけるコミュニケーションとしての役割
1月号 ミドルリーダーの成長を支援する
6月号 ミドルリーダーを任せたい人・活躍する人
10月号 人材育成におけるミドルリーダーの役割
2月号 リーダーをチームで育てる
7月号 計画的なミドルリーダーの育成
11月号 ミドルリーダー育成における園長の役割
3月号 まとめ

* 内容と順序は変更になる場合がございます。

チャレンジの前の

法律講座



執筆 木元有香
（弁護士・木元有香法律事務所）

保育現場では、保育内容の見直しや園児募集の工夫、ICT導入など、新しいことに挑戦する機会が増えています。その時、どんな点に注意したらよいでしょうか。弁護士の木元有香先生が解説します。

イラスト／さくま育

Q. 園の魅力発信・園児獲得のために、保育者による読み聞かせの動画を作り、YouTubeで配信したいです。

第1回

読み聞かせ動画を SNS で配信する①

著作権法上と肖像権の問題をクリアする必要があります

読み聞かせ動画を配信するには、①著作権法上の問題と、②肖像権の問題をクリアする必要があります。これらをクリアしなければ、著作権者や出演した保育者から、動画の削除や損害賠償を請求される可能性があります。4月号では①著作権法上の問題を考えます。

1 著作権について

著作者、著作権者及び著作権

絵本は著作物です。お話（言語の著作物）とイラスト（美術の著作物）という2つの著作物が結合した「結合著作物」に当たります。そのため、お話を創作した作者とイラストを創作した画家が著作者となります。

著作物を創作した時点で、自動的に著作権が発生し、原則として著作者が著作権を有します。広義の著作権は、狭義の著作権（著作財産権）と著作者人格権という権利から成り立っています（図参照）。狭義の著作権には、口述権・公

衆送信権などがあり、絵本の読み聞かせを行ったり、動画をインターネット上にアップロードする場合は、著作権者の許諾を得る必要があります。

2 著作権者の許諾を得る方法

読み聞かせ動画では、通常、文章の朗読に加えてイラストの静止画や動画も映し出すこととなります。そのため、お話の著作権者とイラストの著作権者の双方から、動画利用に関する許諾を得る必要があります。絵本の出版社のホームページ等で確認するのがよいでしょう^{*1}。その後、出版社に連絡し、著作権者の許諾を得る交渉をすることになります。

3 著作権者の許諾が不要な場合

著作権の保護期間が経過し、著作権が消滅している絵本（青空文庫などで確認可能）を選定する方法も考えられます。保護期間を過ぎた著作物は、著作権者の許諾を得ずに利用できます^{*2}。

*1 著作権者の意向にかかわらず、インターネット上へのアップロードや配信を許諾しない出版社もあるので確認を。

*2 日本人の著作物は原則、著作者の死後70年経過（死去の翌年の1月1日起算）で公有（パブリック・ドメイン）となり無許諾で使用可。外国人の著作物は翻訳者の二次的著作権がある場合が多いので、注意が必要。

これって
OK?
NG?



まねっこNG

絵本の改変を加えた利用（二次的使用）には絵や文章を変形するあらゆる形態での使用が含まれます。「著作者人格権」を侵害するため、著作権者の許諾が必要です。

また、絵本などの拡大使用は、著作権だけでなく出版権を侵害することもあり、出版社の許諾が必要な場合があります。

- ・ 絵本、紙芝居の拡大複製
- ・ 絵本のキャラクターを使ったペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇、紙芝居、さわる絵本、布の絵本、パワーポイント

園での読み聞かせはOK!

非営利・無料・無報酬であれば、園で保育・教育の一環として行われる日常の読み聞かせは、許諾なく行うことができます。
(著作権法第38条1項)



年間予定

4月号 SNSで動画配信①
8月号 園庭開放の管理
12月号 不適切保育への不安

5月号 SNSで動画配信②
9月号 個人情報について学ぶ
1月号 カフェや離乳食販売をする

6月号 運動会の競技見直し
10月号 発表会での保護者の撮影
2月号 スポットワークの保育者採用

7月号 男性職員の育休
11月号 職員の仕事方を見直す
3月号 職員の歓送迎会の進め方



広義の著作権

- 狭義の著作権 (著作財産権)** : 著作者の著作物に対する財産的な利益を保護。著作物を排他的・独占的に使用できる権利
- 著作者人格権** : 著作者の有する著作物に対する思い入れやこだわりといった人格的な利益を保護する権利

狭義の著作権

- 口述権
 - 公衆送信権
 -
 -
- ※その他、複数の権利がある

口述権 : 絵本の読み聞かせを行う行為は、著作権法上の「口述」にあたります。口述とは、朗読や授業などで言語の著作物を公に口頭で伝達することです。絵本の読み聞かせを録音・録画したものを再生する行為も口述に含まれます。そのため、絵本の読み聞かせを行うには、原則として著作権者の許諾を得る必要があります。(ただし、園での読み聞かせは上記の通り著作権法第38条1項の例外規定の適用があります)

公衆送信権 : 口述の動画(録音・録画)をインターネットにアップロードしてだれでも視聴できるようにする行為は、著作権法上の「公衆送信(送信可能化)」にあたります。動画をインターネット上にアップロードする場合、著作権者の許諾を得る必要があります。動画投稿を収益化しない場合も同じです。(こちらは口述権とは異なり、有償、無償にかかわらず、著作権法第38条1項の例外規定の適用はありません)

5月号では、引き続き②肖像権の問題を取り上げます。

プロフィール●木元有香(きもとゆか) / 弁護士。東京大学法学部卒業、東京大学法科大学院修了。2008年弁護士登録。保育施設の顧客を多く抱える。保育士資格、幼稚園教諭一種免許取得。著書に「保育ナビブック 幼稚園・保育所・認定こども園のための法律ガイド」(フレーベル館)、編著に「事例から理解する保育施設の個人情報取り扱いガイドブック」(中央法規出版)ほか、多数。



月刊保育雑誌『保育ナビ』
定価 1,200円 (本体 1,091円 + 税 10%)
B5判 64ページ

2026年度『保育ナビ』は
子どもというワクワクが広がる！
園がまちの『未来』になる！
をコンセプトに情報をお届けします。

3要領・指針改訂の動きに対応

社会の変化をキャッチする

「保育の当たり前」を捉え直す

保育ナビ、年間購読申込受付中！

『保育ナビ』を1年分まとめて申し込むと、特典が付きます。

*フレーベル館の営業担当者からの直接購入に限ります。
詳細はフレーベル館の貴園の担当営業までお問い合わせください。

特典 1 大豆生田啓友先生と佐伯絵美先生による
「子どもの姿ベースの指導計画」解説動画！(120分程度)

特典 2 『園で役立つ！感染症まるわかりBOOK(仮)』
監修/森 庸祐 (森医院こどもクリニック)

2026年度 特集のテーマ

- 4月号 今、園に求められる保育 DX とは？
保育の質を高める ICT 活用術
- 5月号 気候変動で保育はどう変わる？
酷暑の日の保育実践・保育環境
- 6月号 自分らしく保育する
～パーソナルカラー診断と骨格診断でなりたい私に一步近づく～
- 7月号 ミニ特集 ① 中堅育成、キャリアアップ研修の今
ミニ特集 ② 最新情報！スウェーデンの保育
- 8月号 地域で広がる！学び合いのネットワークづくり
- 9月号 見直そう！園の防災対策
- 10月号 保育現場で育む手遊び・歌遊びの魅力
- 11月号 今知りたい 3 要領・指針改訂
- 12月号 虹色の子どもたちの特性理解と支援
- 1月号 保育者がほっとできる職場環境づくり
- 2月号 リーダーのマネジメントスタイル
- 3月号 3要領・指針のポイント整理

※より良い企画にするため内容が変更になる場合があります。

5月以降開始の連載も多数！

園の未来を握るリスペクト型マネジメント
～みんながワクワクする多機能化と地域共創
大豆生田啓友
エコロジカルな園庭へ
再生のための実践ゼミ
小西貴士
子どもと日常の保育の見方が変わる
事例から学ぶインクルーシブな保育
若月芳浩
園長先生のための若手理解講座
和田美香
地域の保育を創るリーダーたちを
どう育てるか
砂上史子
子どもの声を聴く
島本一男
試してみたら、これは便利！ ICT 活用術
大豆生田啓友、田澤里喜 ほか
職員が辞めない！
脳科学でつくる「最高のチーム」
西剛志

保育セミナー

フレーベル館では、2026年度も様々な
テーマでセミナーを実施しています。『保
育ナビ』執筆陣によるセミナーも多数あ
ります。誌面とあわせてご活用ください。

セミナーの
最新情報
はこちらから



<https://seminar.froebel-kan.co.jp/>

【問い合わせ先】株式会社フレーベル館 セミナー事務局 メール：seminar@froebel-kan.co.jp 電話：03-5395-6637